

令和6年度 江戸川区立西一之江学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考えすすんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	子供たちが、「今日は一日楽しかった。また、明日が楽しみだ。」と考える学校。 教職員も子供たちと共に学び、自らも成長していける学校。 ・明るい学校 ・楽しい学校 ・魅力ある学校
前年度までの本校の現状	成果	課題	・一人一台端末のより効果的な活用方法を考えていく必要がある。 ・学力（主に算数）の底上げを図る必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎	・ファシリテーションの意識を高め、主体的な学習をお定着させる授業の展開	・定着度調査でAB層50%	B	B	B	・7月の定着度調査の結果はA層31.5%、B層41%となった。ただし、4月の調査に比べ、B・C層の割合が増えてしまっているため、既習事項の復習にも力を入れていく必要がある。	B	・診断テストの結果による。	B	・校内研究で取り組んだ国語科（文学的文章）を中心に、児童の考えを引き出そうとする指導・授業展開が教員間で共有された。	B	・学習の基盤となる体力と明るさで毎朝の挨拶指導が徹底している。 ・具体的な取り組み目標は良い ・昨年度より全般的に向上している。国語は期待通りに向上している。算数の向上に期待。	・校内研究の成果をもとに、取り組んでいく。引き続き児童の考えを引き出す指導を続けていく。
	・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・江戸川っ子study weekの取り組み内容を学校と家庭で共有 ・3年生での辞書引き学習の実施	・全ての児童がドリルパークを実施 ・3年生全員が国語辞典の引き方を習得	A	A	A	・江戸川っ子study weekが4月当初に設定されていたため、その後取り組みやすかった。 ・3年生の辞書引きについては、主体的に調べる児童の姿が見られた。	A	・3年生全員の国語辞書の引き方習得による。 ・タブレットが普及したが、辞書引き学習の大切さも学び続けてほしい。	A	江戸川っ子study weekでは、全学年でドリルパークに取り組みすることができた。児童の意欲も高まった。	A	・夏休みラジオ体操後、会館で合同運動などで協力をした。 ・江戸川っ子study weekが各学期に1週実施されており、よい学習機会だと思う。 ・3年生の辞書引きの習得への取り組みを実施。	・取り組み状況を家庭と共有するのが上手いか、家庭との共有方法を全体で確認する必要がある。
	〇読書科の更なる充実	・読書科における探求的な学習の充実 ・図書室整美活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施 ・朝読書の実施	・自ら課題を見出し、図鑑や資料を使って探求する活動を年3回以上実施 ・週1回の朝読書の実施による読書意欲の向上	A	A	A	・読書科における探求的な学習は全校で行っている。朝読書だけでなく、保護者による読み聞かせや高学年児童が下学年の教室に読み聞かせに行く活動を行っており、読書意欲の向上につながっている。	A	・読み聞かせを、「本は友だち隊」「上級生」等、頻繁に実施している。 ・図書室の整備、工夫した模様替え等も実施され、読書意欲の向上を図っている。 ・読書の機会を増やしてほしい。	A	・教員による読み聞かせも行っており、児童が本に親しむ機会が多い。 ・図書ボランティアと一緒に夏休み集中図書整備を行うことで、図書室が整理され、児童が使いやすい図書室になっている。 ・学校司書の活用が進み、学年ごとに調べ学習での本の収集がしやすくなった。	A	・令和7年度は前会が子供会を応援する読書や読み聞かせを考えたい。 ・図書室の整備が定期的に実施され、いつも清潔に管理されている。 ・読み聞かせは保護者によるもの、高学年によるものと頻繁に実施され、良い。 ・図書は分類ごとによく管理されている。	・図書ボランティアや学校司書との連携を続けていく。
体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・朝の時間を活用しての「元気タイム」の実施 ・「体カテストがんばろう月間」の実施	・体カテスト全種目において、昨年度の記録を上回る	B	B	B	・元気タイムを実施することで、運動の機会を増やすことができている。 ・体カテストががんばろう月間で、体カテストの練習ができ、記録の向上につながった。	A	・運動会において、練習もきめ細く実施され、また「元気タイム」を捨てる等、運動意欲の向上を図っており、体力向上が見込まれる。 ・前会で夏休みラジオ体操は実施した。子供は体を動かすことが好き。	B	・元気タイムや体カテストががんばろう月間によって、体カテストの数値が伸びた種目等もあった。 ・外遊びを奨励することで、運動に対して積極的に取り組む児童が増えた。	B	・前会の夏休みラジオ体操で長期実施し、協力した。 ・体育学習発表会は良くできていた。 ・取り組み内容は具体的で良い。 ・元気タイムや休み時間の運動促進等、運動意欲向上に向けた取り組みを実施した。	・体カテスト強化月間などを設け、児童の苦手な種目のポイントなどを伝える機会を作りたい。 ・生活指導と連携を図りながら、外遊びの奨励を進める。
	・運動習慣の定着化	・江戸川っ子なわとびweekにおける業間運動の実施	・なわ跳びを楽しんで実施する児童80%以上	B	B	B	・学年ごとに江戸川っ子なわとびweekでなわ跳びを実施したが、楽しんで実施しているかどうかは見取りづらかった。 ・なわとびweek後もなわとびをする児童はあまり見られなかった。運動習慣の定着化にはあまり効果がないと感じる。	B	・より多くの運動に取り組めるようにしていくと良い。	B	・なわとびweek後にもなわとびをする児童があまりいなかった。（特に高学年）だが、低学年の児童の中には、中休み休みになわとびをしている様子が見られた。	B	・温暖化の中で運動は難しい。元気な高齢者と共同の運動を計画したい。 ・なわとびチャレンジウィークに期待している。	・温暖化が進んでいることで、屋外での運動について対策をしていく。 ・なわとびチャレンジウィーク後もなわとびに取り組む児童が増えるような指導をしていく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	A	A	A	・巡回相談心理士による研修会を開催し、特別支援教育についての理解を図ることができた。 ・特別支援校内委員会を月に1回実施し、2学年ごとに深い情報交換ができていく。	A	・「さくらルーム」の設置及び特別支援教育の広報も実施されており、理解向上を図っている。 ・学校生活の中で、お互いを認め合い、助け合い意識が身に付いている。 ・一人一人の個性を大切に。	A	・巡回指導員による、教員への勉強会や児童への理解啓発の時間を設定し、特別支援教育に対する理解を学校全体で深めることができた。 ・特別支援校内委員会を毎月実施し、教員の児童に対する理解や対応方法を共有することができた。	A	・子供たちの遊び環境と町会会館の提供を行う。 ・ホームページに掲載され、充実を図っている。	・次年度も巡回指導員や巡回心理士、スクールカウンセラーと連携を行い、特別支援教育をよりよいものとしていく。
不登校・いじめ対応の充実	・不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートの実施	・毎月第4週に「人権週間」として取り組む	A	A	A	・毎月4週目に、様々な取り組みをしている。学期末にいじめアンケートも実施した。	A	・子供たちの表情も良く、特にいじめについての情報もない。	A	・いじめになりそうなお話で聞き取りや、対策をたて、しっかりと納得感をもって指導にあたることのできた。 ・「なかよし週間」などの取り組みを通して、友達との関わり方について考えを深めることができた。	A	・人権啓発活動実施校として、子供たちへの人権啓発に積極的に取り組んでいる。人権メッセージ発表会での児童の発表等、成果を上げた。	・「人権の花」活動への取り組みを通して、より啓発活動を行っていく。
	・教育相談の強化	・なかよしホストの設置	・一人一人の声を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止	B	B	B	・なかよしホストの周知を行った。	A	・「いじめ」「不登校」についての未然防止に向けた取り組みを十分に行っている。	A	・「いじめ」「不登校」の未然防止だけでなく、起こりそうなものや、起こった時どうするか対策を話し合うことができた。	A	・給の挨拶呼び掛け、家の前で降りかえは挨拶や声掛けを行った。 ・なかよしホストの設置等、工夫している。 ・子供たちは明るく元気で、高学年になると落ちつきを見せ、頼もしくも安心に成長している。	・「なかよしホスト」の周知をすすめる。
	・hyper-QUの活用	・hyper-QUやアンケートの実施	・学級満足度80%以上	B	B	B	・hyper-QUの結果を受けての研修会を実施した。結果を受けて今後の学級経営につなげる。	B	・タブレットの普及により新たな問題も出てきていることですがしっかりとケアできている。	A	・hyper-QUでは、満足度の高い学級が多く、学級経営に力をつけることができた。 ・タブレットの扱いは、定期的に使い方の確認・指導を行うことができた。	B	・新しい情報機器に振り回されないようにしたい。 ・学習のために貸与されているという意識を高め、使い方をより一層充実させていく。	・学習のために貸与されているという意識を高め、使い方をより一層充実させていく。

学校(園)の実現 地域社会に開かれた	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの充実等 学校公開の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 全項目でのB評価以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事や学校の取組をホームページに掲載している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページに遅延なく情報が掲載されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとの情報発信ができています。宿泊行事の際にはより細かな発信がなされ、保護者からも好評だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報が多いため読み切れない。 ホームページは遅延なく更新され、わかりやすく掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も続けていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 全項目でのB評価以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページへの掲載だけでなく、学校評議員会で学校関係者評価への感力を依頼している。 学校関係者評価の掲載を見やすいように文字を拡大したり、記入してほしい箇所を白抜きにしたりしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校へも訪閲しやすい雰囲気である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員からは概ね良い評価をいただいている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに画像が多い。 地区委員会行事、近隣町会行事等、多大な協力をいただいている。また、すすきすくスクールとも良好な関係を構築していただき、感謝している。 教職員への対応が良く、職員室の雰囲気も良い。すすきすくスクールへの対応も良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の職員も積極的に意見を言える方法を構築していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 鼓笛隊の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 中央地域まつりや一之江ふるさと祭りへの参加 校内での鼓笛隊発表の機会 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生児童の自己評価肯定的意見80%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 中央地域まつりでは、多くの児童が満足感を得ていた。2学期も取組を続ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 鼓笛隊は短い期間での練習だったが、立派だった。 地域とは防災訓練等で、十分な連携を図っている。 今後は違った形で実施できることを考えていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 高学年で演奏や管理運営の方法を引き継ぐ活動を実施した。 引継活動の様子から、高学年が高い意欲をもって取り組む児童が多かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中央地域まつりに6年生が参加し、忙しい先生たちに頭が下がる。 中央地域まつりの鼓笛隊は立派だった。今後も引き継がれていくことを願っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も続けていく。
教育の展開 特色ある	<ul style="list-style-type: none"> <俳句作り> 豊かな感性と表現力の伸長 日本文化理解 	<ul style="list-style-type: none"> 校内及び地域施設への掲示 各種コンクールへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとに全児童による取組み 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> コンクールの参加は各クラスで取組曲に響くものがあり、俳句に自主的に取り組む児童は昨年より多く、関心の高まりが見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に実施され、作品の掲示・掲載により、子供たちの創作意欲が向上される。 豊かな人間性の形成に貢献している。 学校でも特に力を入れているので引き続き継続してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとの俳句の取組みにより、意欲が高まった。継続することで俳句作りの技能も向上している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 俳句作りはホームページで見ると、素晴らしい。 俳句を作り、校内・地域施設・学校だよりに掲載している。どれも素晴らしい俳句で、子供たちの育成に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> 優れた技法を紹介する機会があっても良い。
	<ul style="list-style-type: none"> <カブトムシ小屋> 環境教育(ESD)・SDG'sの推進 生き物を大切に育む心身の育成 	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシの飼育・観察 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生児童の飼育・観察活動に対する自己評価肯定的意見80%以上 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシの飼育では、児童は育成に意欲的であったが、育成が難しくほとんど成虫になることはなかった。一人一匹の飼育は3年生の児童にとって難しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAとの連携もあり、小屋の整備状況も良好で、生物に対する子供たちの心身の育成に大きく貢献している。 生き物の大切さや成長過程を学習できる大変素晴らしい取組なので、今後も継続してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシの飼育が西一江小の特色として他校からも認識されている。また、1人1匹飼育の活動が、自然愛護や動物等への苦手感を薄らけている。 PTAの協力も充実しており、家族で整備に取り組みむ姿もあるなど、今後も継続したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 親水公園で年2回、有名な先生が来て動物園教育があり、子供たちに広めたい。 西一小独自のカブトムシの育成は、PTAの協力もあり、長く継続され、草花も大切に育む心身の育成に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はカブトムシの飼育数が減ってしまったので、引き続きPTAと連携の上、取り組んでいく。